

予科練甲飛十期の碑に思うこと

静岡市静岡遺族会 高井成治

ウクライナの惨状に心が痛みますが、同時に強く心に浮かんでくるのが、昭和20年6月の静岡大空襲の後、清水山の隠れ場所から我が家に戻ると、隣近所は全て焼け落ちて、すさまじい匂いが立ちこめていました。

暫くして両親にも再会できましたが、その後は防空壕での厳しい生活が続き、戦争の恐ろしさを実感したことを今でも忘れません。

やがて、終戦を迎えましたが、両親が待ちわびていた長兄の消息は全く不明でした。

数年後、漸く公報が届き、比島で戦死していたことが判りました。遺骨として届けられた木箱の中は、兄の名前が書かれた一枚の紙切れでした。気丈な母が深夜嗚咽していた姿は忘れられません。

暫くして予科練十期の戦友たちのご尽力で、兵庫県宝塚市のお寺『聖天』さんに『神風特別攻撃隊之魁／甲飛十期の碑』が建立されました。

碑文によれば、

『敷島の大和心を人問わば

朝日に匂う山桜かな 本居宣長

この歌より「敷島・大和・朝日・山桜」さらに「菊水」の五隊が【神風特別攻撃隊】として編成されることとなり、甲飛十期の零戦搭乗員より20余名が選抜されて神風特別攻撃隊の先駆けとなった。

若干20歳に満たない若者がひたすら祖国最後の勝利を信じ、父母を思い故山を偲び、黙々とその任務を完遂して散華し、卒業時1,004名の80%が帰らぬ人となった。その崇高で至純な行為と精神を後世に伝え、霊を慰め徳を顕彰するためにこの碑を建立する』とあります。

私の長兄も、同じ予科練10期生として比島で戦死し、仲間と共にここに眠っています。

兄たちの安らかな眠りを祈るとともに、また会いに行きたいと念じています。

初めて知った父の戦死の状況

静岡市静岡遺族会 為貝宏邦

母の三回忌が済み、遺品の整理をしている中で、父と同じ部隊に所属し、復員してきた方からの手紙がありました。内容は父の最後の状況について書かれており、初めて知ることでした。

母からは、南方で敵方の空爆を受け、爆弾の破片が体中に刺さり、昭和19年10月19日に戦死したと聞いていました。私は被弾して直ぐ戦死したと思っ

ていました。しかし、手紙には7月19日に被弾し、命は助かったが、破片が無数に刺さり、テントに担ぎ込まれたが治療は十分でなく「痛い、痛い」と言っていたとのことでした。2ヶ月位経って最後を悟り、手紙を書きたいと訴えたそうですが、書く力はなく、1カ月後位に命が尽きたということが書かれていました。

私は、80歳近くになるまで3か月間も痛さに苦しみ生死の境をさ迷って戦死していったことを知らなかった自分を恥じるばかりです。

考えてみると、母と戦争のことや父の戦死について深く話すことはありませんでした。そのため父の苦しみを知ってあげられなく、申し訳ない気持ちでいっぱいです。

また、母にも父のことを聞いてあげなかったことは、つらい思いをさせてしまったんだろうと後悔の日々です。

今私にできることは、多くの英霊の方々が父と同じように何日も苦しみ戦死していったことを思うとき、英霊の御霊が安らかに、そして心静かにお休みいただけるよう、護国神社の清掃活動と慰霊の気持ちをいつまでも持ち続け、各種の慰霊行事に参加していくことだと自分に言い聞かせ、実行しています。

清掃活動は、静岡遺族会有志の方々と、偶数月に行っています。慰霊のお気持ちがある方は、ぜひ一緒にやりましょう。

(令和2年静岡市静岡遺族会会報たちあおいより)

支部長として思うこと

静岡市静岡遺族会 野田成子

遺族会の支部長をさせていただいてから15年目となります。勤めているときは遺族会とはほとんど関わっていませんでしたが、入会のきっかけとなった戦死した父についてお話させていただきます。

実は、私は父の顔を知りません。父も私の顔を知りません。私が母のお腹にいたとき沖縄の戦地に行き戦死しました。残っている戦地からの父の手紙では女の子が生まれたことを喜んでいました。

戦後の母の苦労は並大抵ではなかったと思いますが、私は母に守られ父親がいないという寂しさを感じたことはありませんでした。母は我が子に会えずに亡くなった父の為に私の成長を生きがいとして、一生懸命育ててくれました。そんな母の望みは、一人娘の私を私立の学校に行かせることでした。しかしその当時は片親では私立の学校に行かせることも、銀行に就職することもできませんでした。母がどれだけ悲しく、悔しかったのか、その想いがわかり今でも

私の心に残っています。戦争により父母そして私の人生も変わってしまいました。父や母が私に残していったくれた想いを大切にしていきたいと思っています。

人は二度死ぬと言われています。一回目は肉体が亡くなること。二回目は人から忘れ去られることだそうです。私が支部長を受けた時よりどんどん会員が減りさみしい限りです。でも戦死された方々につながっているのであれば戦後の平和の為に犠牲になられた人達を忘れないでほしいと願うばかりです。

遺族会で持てる繋がりをこれからも大切にしていきたいと思っています。

(令和元年静岡市静岡遺族会会報たちあおいより)